

2014.8.7 居住支援部会

1. 居住支援部会の状況

2010年7月の部会より、自立支援協議会に正式に認められ、その後2か月に1回のペースで定例的に部会を開催し、テーマを決めた検討や研修等を積み重ねてきました。

暮らしに関わる部会なので、主に「グループホーム・ケアホーム」の関係者が常時10名～20名程参加。国の暮らしに関する制度の検討、グループホーム・ケアホームでの支援課題の交流やホーム見学会や研修等を行ってきました。また、地域移行の課題もあるので、ホームの空き室状況等も確認してきました。

2. この間の部会の開催内容 (2014年に入ってから)

○第17回 部会 (2014.1.31)

2014年4月よりの「ケアホームとグループホームの一元化」を含む制度変更の内容確認。

○第18回 部会 (2014.3.14)

4月よりの「グループホーム一元化」に向けて、各ホームがどう対応するか意見交換。

○第19回 部会 (2014.5.30)

金銭管理事業の学習会 吹田市社会福祉協議会より「自立生活支援事業」の報告。

○第20回 部会 (2014.7.18)

成年後見制度学習会 さつき福祉会より「成年後見利用状況」報告。

3. 部会で上がってきた課題

○グループホームへの入居希望者は増えているのに、新規開設が厳しくなっていること。

100㎡以上のグループホームは「寄宿舍」扱いの「用途変更」が必要で、これまでホームとして利用してきた「賃貸の一戸建て住宅」の利用が厳しくなっている事。

もうひとつは、消防法の改正で、ホームにスプリンクラー設置の義務化が来年から始まる事。

○地域移行や退院促進の課題も多くなっているが、制度的にホームスタッフの確保が厳しい事。

医療ケアの必要な人や重度の行動障害の人の暮らしの支援や、軽度でも「触法」等の社会的な課題の多い利用者への対応は専門性が必要で、しっかりした人員配置が求められるのに・・・国の報酬がとても低く、どこのグループホームも非正規・非常勤で支援せざるを得ないこと。

その意味でも、グループホームスタッフの質を高め、育成を進めていく事が必要。

○成年後見や金銭管理、訪問医療や訪問看護等が不足しており、いつでも利用できる事業所がもっと増えていく中で、暮らしを支援する地域での支援ネットワークが必要な事。

○地域との関係づくりをいっそう強化して、グループホームの防災に備えること。

4. 今後の部会の開催予定

第21回 部会 9/19

○検討テーマ 高齢化と介護保険の課題
報告 NPOパレット(かぼちゃの部屋)より 高齢化の状況
吹田市より 介護保険制度の状況